

トマトキバガの誘殺数が急増

～冬期間もビニル被覆を行うハウスでは、
収穫終了まで防除対策を徹底しましょう～

1. 現在までの発生状況と今後の発生予想

トマトキバガの侵入調査において、フェロモントラップを県内4地点のトマトやミニトマトのハウス周辺に設置したところ、総誘殺数は6月から9月まで月を追うごとに増加し、9月3半旬に急増した(図-1)。

これまでの調査では、昨年トマト栽培期間中に本虫が発生し、かつトマト栽培終了後の冬期間もビニル被覆を行ったハウスで、冬期間も継続的に発生が確認された。さらに、育苗期間中にはトマト苗への食害も確認された(令和5年度農作物病虫害防除対策情報第20号参照)。

以上のことから、冬期間もビニル被覆を行うハウスでは、本虫が越冬し、翌年の発生が懸念されるため、トマトやミニトマト収穫終了まで以下の防除対策を徹底する。

2. 防除対策

- 1) 成虫、幼虫、蛹は見つけ次第、捕殺する。
- 2) 食害された葉や果実など(図-2、3、4)はほ場に放置せず、土中深く埋没するか、ビニル袋などに入れて密閉して本虫を死滅させた後、適切に処分する。
- 3) 作物残渣はほ場外で適切に処分する。
- 4) ビニルマルチや支柱などの資材は、速やかにほ場外に撤去する。
- 5) 薬剤防除はトマトキバガに登録のある薬剤を散布する(表-1)。
- 6) 海外ではピレスロイド系剤(RACコード:3A)やジアミド系剤(同:28)などの殺虫剤に対する抵抗性を獲得した個体群の発生が報告されているため、同一RACコードの薬剤は連用しない。

3. 資料

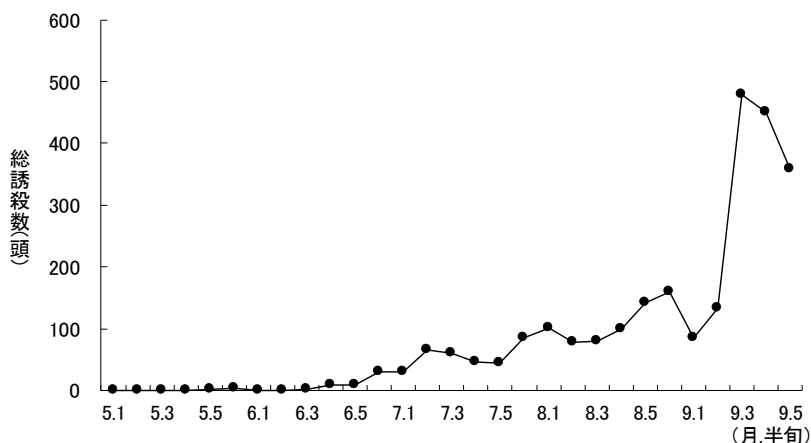
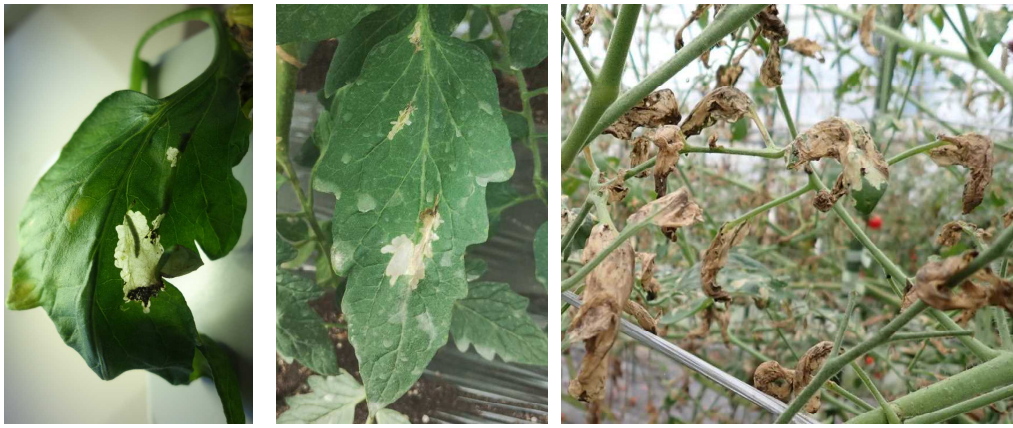


図-1 フェロモントラップ(4地点)における総誘殺数の推移



図－２ 葉の食害



図－３ 果実の食害（左：ミニトマト、右：トマト）



図－４ 生長点付近の食害

表－１ トマトキバガに登録のある農薬一覧（茎葉散布剤）

適用作物名		RACコード*	農薬名	希釈倍数	本剤の使用回数	使用時期
トマト	ミニトマト					
○	○	未・5	ダブルシューターSE	1,000倍	2回以内	
○		6	アグリメック	500～1,000倍	3回以内	
○	○	6	アニキ乳剤	1,000倍	3回以内	
○	○	6	アフーム乳剤	2,000倍	5回以内	
○	○	5	ディアナSC	2,500～5,000倍	2回以内	
○	○	5	ラディアントSC	2,500～5,000倍	2回以内	
○	○	13	コテツフロアブル	2,000倍	3回以内	
○	○	30	グレーシア乳剤	2,000倍	2回以内	収穫前日まで
○	○	28	フェニックス顆粒水和剤	2,000倍	2回以内	
○	○	28	ベネビアOD	2,000倍	3回以内	
○	○	28	ヨーバルフロアブル	2,500倍	3回以内	
○		22A	トルネードエースDF	2,000倍	2回以内	
○		22A	ファイントリムDF	2,000倍	2回以内	
○	○	22B	アクセルフロアブル	1,000倍	3回以内	
○	○	UN	プレオフロアブル	1,000倍	2回以内	
○	○	11(A)	エスマルクDF	1,000倍	-	発生初期
○	○	11(A)	チューンアップ顆粒水和剤	2,000倍	-	但し、収穫前日まで

【問合せ先】 秋田県病害虫防除所 TEL 018-881-3660 秋田県農業試験場 TEL 018-881-3326
 【掲載HP】 <https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/>